

2026年度 法科大学院

第4期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙は2種類あり、それぞれ受験番号および氏名の記入欄がありますので、監督の指示に従って正しく記入してください。
5. 必ず【民事訴訟法】の解答は【民事訴訟法】の解答用紙に、【刑事訴訟法】の解答は【刑事訴訟法】の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

Xは、Yを被告として、中古自動車の売買契約に基づく売買代金の支払を求める訴えを提起し、売買契約の成立を立証するために売買契約書の書証申出をしたとする。

問1 Yが、Y名義の作成部分の成立の真正を否認し、その理由として、「売買契約書の印影は、Y所有の印鑑によるものであるが、それは何者かによって冒捺されたものであって、Yが印鑑を売買契約書に押捺したことはない。」と述べたとして、このYの主張の法的な意味を説明した上で、裁判所は、誰に対し、どのような主張立証を促すべきかを論じなさい。

問2 仮にYが売買契約書の成立の真正を認める旨の陳述をしたところ、後にこれを撤回し、問1の主張をすることができるかを論じなさい。

[刑事訴訟法]

司法警察員K 1らは、東京都C区F付近において覚醒剤の取引が行われているとの情報を得て、付近の警らを行っていた。某日午後8時30分頃、I駅付近の路上にいた男性がK 1らの姿を見た途端に不自然に避けようとしたのを見つけた。この男性は、顔色がどす黒く、頬がこけ、視線が定まっておらず、不自然に汗をかいていたことなどから、K 1らは、男性が何らかの違法な薬物を使用しているかもしれないと考え、職務質問を行うために「ちょっと止まってください。」と呼びかけて、停止を求めた。

ところが、男性はこれに応じず、咄嗟に進行方向を変えて、近くにあった地下鉄乗り場がある階段を駆け下り始めた。K 1らは走って追いかけて、階段下の地下鉄駅構内で追いつくと、K 1が「待ちなさい。ちょっと話しましょう。」と声をかけながら、後方から男性の肩等に片手をかけて後方に引いて制止した。これと同時に司法警察員K 2が男性の正面、司法警察員K 3が男性の右側に回り込んだ。男性は、K 1の腕を振りほどいてその場から走って立ち去ろうとして、進路に立っていたK 2とK 3の体に強く接触したが、K 2らは動じることなく、両腕を組んだままその位置に立ち続けた。(1) 男性の左側には地下鉄駅の改札口があったが、男性は乗車券やICカードを所持していなかった。男性は、その場を立ち去ることをあきらめて、K 1の職務質問に応じた。

男性が免許証を提示し、その氏名がXであることなど身元が判明したため、前科を照会したところ、覚醒剤事犯での前科があることがわかった。Xは腰にウエストポーチを装着していたため、K 1は「そのポーチの中を見せてほしい。」とXに求めたが、Xはこれを頑なに拒否した。約10分間にわたって説得を続けてもXが応じないため、K 1は、Xの腰に両手をまわして、ウエストポーチを腰に固定する留め具を探り当てると、留め具を外してウエストポーチをXの腰から外し、直ちにファスナーを開いて手を入れ、中にあったものを引き出した。(2) ポーチの中から小さなビニール袋に入った白色粉末が発見された。

下線部(1)及び(2)の各行為は適法か。それぞれについて理由を示して答えなさい。